

3. 応急処置

吸入した場合 : 被爆者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布などで覆い、保温して安静に保つ。速やかに医師の診断を受ける。呼吸が弱かったり、止まっている場合には、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で酸素吸入または人工呼吸を行なう。

呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横に向ける。意識がない場合は口から何も与えてはならないし、吐かせようとしてはならない。

皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を多量の水又は微温湯で流しながら洗浄する。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は、直ちに医師の診断を受ける。

眼に入った場合 : 洗浄な水で最低15分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の診断を受ける。
洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗浄する。
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。

飲み込んだ場合 : 水で口の中をよく洗浄する。コップ1～2杯の水または牛乳を与え、胃内で薄めてもよい。体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。直ちに医師の診断を受ける。
頭を横に向ける。意識がない場合は、口から何も与えてはならないし、吐かせようとしてはならない。

4. 火災時の処置

消火剤 : 炭酸ガス、泡、粉末、噴霧水

引火性 : 製品自体は可燃性ではない

延燃により引火した場合は以下の処置をとる。

- ・可燃性のものを周囲から取り除く。
- ・適切な保護具（耐熱着衣など）を使用する。
- ・上記、消火剤を使用し消化する。

5. 漏出時の措置

- 保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグ作業の際には適切な
人体に対する注意事項：等）を着用する。
環境に対する注意事項：河川などへ排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
地域の規則に従う。

回収方法

- 多量に漏出した場合：土嚢等で拡散を防止し、凝集・凝固剤等で凝集措置をし
た後、回収する。
少量の場合：土、ウエス等に吸収させて回収する。

6. 取扱い及びお本条の注意

- 取扱い：製造元より提供される通常の使用方法を遵守すること。
使用状況により期待された結果を発揮しない場合がある。
状況に応じ保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用す
る。
皮膚に付着した場合には、その都度水洗いをするか濡れタオル等でふき取っ
て下さい。
- 保管：水漏れの恐れがあるところは避ける。
屋内に保管する。
容器内に過度の湿気が発生しないように注意する。
子供の手の届かないところに保管する。

7. 暴露及び保護措置

- 管理温度：設定されていない
- 保護具：呼吸用保護具：着用が望ましい
保護眼鏡：着用が望ましい
保護手袋：着用が望ましい
保護衣：着用が望ましい

8. 物理/化学的性質

- 物理的状态
- 外観：乳白色液体
- 溶解度：水に任意で溶解する
- pH：7～9
- 管理濃度：知見なし
- 許容濃度：知見なし
- 着火点：なし

爆発特性（爆発限界） : 下限 知見なし、上限 知見なし

9. 有害性情報

溶解濃度が高い場合、非常になれに炎症を起こす場合がある。
刺激性 : ある。
急性毒性 : 知見なし

10. 環境影響情報

分解性 : 知見なし
蓄積性 : 知見なし
魚毒性 : 知見なし

11. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄物は焼却するか、産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。排水の場合は、水質汚濁防止法に注意する。廃棄物については廃棄物処理法や国、都道府県並びに地方の法規・条例に従う。なお、外部に委託する場合は産業廃棄物認定業者に内容を明確にして処理を委託すること。

汚染容器・包装 : 空容器は内容物を完全に除去した後に処理する。

12. 輸送上の注意

国連分類 : 国連勧告の定義上、危険物に該当しない。

国内規制 : 該当する規制はない。

輸送の特定の安全対策及び条件

運搬に際しては容器の破損・漏洩がないことを確かめ、店頭・落下・破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

また、雨等の水がかからないように注意する。

13. 適応法令

P R T R 法

安衛法

C A S N o .

官報公示整理番号

危険有害成分

14. その他（引用文献等）

引用文献等

記載内容は、現時点で入手した資料・情報・データに基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも完全な保証をなす物ではありませんので、

取扱いには十分に注意して下さい。

記載してある注意事項等は、通常の手扱いを対象にしたもので、特別な手扱いをする場合はさらに用途や用法に適した安全対策を実施した上で手扱いをお願い致します。